

第 54 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：令和 6 年 11 月 10 日(日)13:00～17:00

場所：佐土原総合支所 2 階研修室

現地見学（動物園東）

参加者：

□市民：28 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授（九州工業大学）

高田准教授（兵庫県立大学）

□行政関係機関：

（国）宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、九州地方整備局河川計画課、

宮崎港湾・空港整備事務所

（県）河川課、港湾課、漁業管理課、中部港湾事務所、宮崎土木事務所

（市）佐土原総合支所農林建設課

実施内容：

事務局より開会の挨拶、国、県、市、コンサルタントの出席者の紹介を行った後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により談義が進められた。

まず、室内でコーディネータが「第 53 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」について資料を参照しながら市民と確認・共有した。次に、事務局より「海岸保全の方向性と先行着手の検討について」を説明したのちに、現場（動物園東）に移動し、現場見学を行った。その後、再び室内に移動し、「海岸保全の方向性と先行着手の検討に関する談義」を行った。

※会議の開催前 1 時間程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

第 53 回市民談義所の振り返り

（特に意見なし）

～「次なる侵食対策（素案）に関する意見交換」について～ に関する談義

※付箋紙を用いたワークショップ形式で談義を行った。事前に付箋紙を参加者に配布し、質問・意見・提案・想いなど記入してもらい、会場に設置した大判の空中写真に付箋紙を貼り付け、その付箋紙を見ながら談義を行った。

付箋紙：質問・意見・提案・想いなど

- ・海岸保全の方向性に関する質問・意見・提案
- ・先行着手の検討に関する質問・意見・提案
- ・対策の実施において
利用・環境などで配慮してほしいこと
- ・宮崎海岸に関する想いなど

【対策素案に対する意見】

[参加者]

- ・なぜ当初計画の 300m 突堤をつくることができないのか。

[事務局]

- ・委員会も含めて議論してきている中で、海岸利用者から突堤 300m を作ると利用に支障が出るという意見があり、突堤延伸を進められない。事業期間が残りに少ない中で、突堤 300m にかわる方法で事業を良い方向に進められないか検討を行っている状況である。

[コーディネータ]

- ・現時点で可能な対策について、模索・検討しているところである、という理解である。

[参加者]

- ・現状で突堤が 3 本設置されているが、砂浜回復の効果が見られない。素人目から見ても、小突堤を間隔あけて作っても効果がないと思う。

[参加者]

- ・突堤案について、前回(第 53 回市民談義所)は住吉エリアに設置するという説明であったと思うが、今回談義所では動物園東エリアに設置となっている。なぜ変更したのか。

[事務局]

- ・設置する対策の種類や位置についても決まっていない。小突堤案は議論を進めるための事務局が考えたたたき台である。技術的な検討については技術分科会の開催準備をしている。新たなデータによる土砂収支の推定やシミュレーションなども含めて、どのような対策が適切かを今後検討していく。

[参加者]

- ・小突堤を入れた際の周囲への影響はシミュレーションで確認しているのか。

[コーディネータ]

- ・事務局に確認したい。委員会では、「小突堤 7 基程度から検討を開始する」ということだけが決まっており、対策の種類・規模・基数についてはこれから検討していく、という理解でよいか。

[事務局]

- ・シミュレーションはまだ実施していない。まずは小突堤 7 基で検討を進めていくことが委員会で承認されており、検討を進めているところである。対策の種類・規模・基数についてもこれから検討していく。

[事務局]

- ・長い突堤であれば土砂の流出を防ぐ効果も高いが、小突堤では効果が限られるため複数本設置して少しでも土砂の流出を止めればと考えている。

[事務局]

- ・小突堤 7 基は事務局案であるが、技術分科会では学識委員から「住吉エリアでは小突堤で砂浜を回復することは無理ではないか。離岸堤のような対策しかないのではないか」といった意見も出されている。このような意見も踏まえて今後議論・検討していく。

[参加者]

- ・前回の市民談義所で話された専門家が「小突堤を設置するなら間隔を狭める必要があり、一本だけ設置しても効果があまりない」とおっしゃっていた。動物園東への突堤設置はこの効果のない対策に該当するのではないか。

[事務局]

- ・小突堤は北から南に流れていく砂を止めるための施設であり、サンドバックは浜崖の後退を防ぐためのものであり、期待する機能が違うため、小突堤を入れたらサンドバックが無駄になるというものではないと考えている。

[参加者]

- ・小突堤を設置する対策は赤江浜と似ていると思う。赤江浜にも突堤が設置されているが効果はほとんどなく、波打ち際に人工リーフを入れている。小突堤では砂浜を回復する効果は期待できないのではないか。

[事務局]

- ・赤江浜の事例も参考にしながら検討を進めていきたいと考えているが、赤江浜で砂浜が回復していないから、宮崎海岸でも砂浜が回復しないかどうかはわからない。これらも含めて今後、しっかりと議論・検討していく。

[参加者]

- ・動物園東エリアに複数本の小突堤を設置するとサンドバックが無駄になるように思う。動物園東エリアはエリアの中で砂がうまく動いているようにも思う。

サンドパック区間に突堤を設置した事例はあるのか。

[事務局]

- ・サンドパックは新しい材料であり、前面に突堤のような固い構造物を入れた事例は国内ではまだない。

[コーディネータ]

- ・砂浜の区間に構造物をたくさん入れるような対策にならないようにしてほしい、という意見かと思う。

【対策工法の提案】

[参加者]

- ・小突堤を設置した場合のシミュレーション結果を見せてもらわないとイメージができない。

また、突堤を増やすくらいなら一度、一ツ葉の緩傾斜護岸前の消波ブロックを全部撤去したほうが砂浜は戻ってくるのではないか、と思う。

[事務局]

- ・次回の技術分科会でシミュレーション結果を提示し、技術分科会で承認されれば市民にも提示することができる。なお、小突堤だけでなく、養浜も併せて行わなければ砂浜はつかないと考えている。技術分科会で小突堤の対策案を提示した際には委員から否定的な意見が出される可能性もあると考えている。

[参加者]

- ・当初計画の場合と比較して小突堤を設置した場合のイメージを示してほしい。また、住吉エリアだけではなく、大炊田エリアも含めた全体を示してほしい。今実施しようとしている対策で目指す将来像がイメージできない。また、検討のプロセスも今後示してほしい。イメージ図はシミュレーションの結果と照らし合わせて根拠のある資料を作成してほしい。

[参加者]

- ・養浜量 300 万 m³ 程度とのことだがどの期間で入れるのか。50m の突堤で 50m 砂がつくとは考えられない。

[事務局]

- ・今後 14 年間養浜を続ける条件で検討を行っている。

[参加者]

- ・突堤を護岸に直角ではなく、北に 30° ほど傾けた突堤にしたほうが効果は出るのではないか。

[事務局]

- ・漂砂を制御する目的で斜めに突堤を設置した事例はないと思う。L 型突堤の例はあり、遮蔽域ができそこに砂は溜まる。

[参加者]

- ・宮崎海岸は南北よりもやや右側に傾いているため直角に突堤をいれると南東に向かって突堤が伸びる形になると思う。北からのうねりが入ったときに、砂が沖へぬけやすいのではないかな。

[参加者]

- ・突堤先端付近に人工リーフを設置する案や突堤の長さを変えるなどの工夫も考えられるのではないかな。

【礫養浜に関する意見】

[参加者]

- ・礫の表面が砂で覆われるようになるまでの時間や、どの程度沈下するのかなどは、検証したうえで投入する礫の大きさを決めるのか。

[事務局]

- ・礫の沈下する速さなどの礫養浜に関する検討はこれからと考えている。

[参加者]

- ・動物園東エリアでは、工事用道路から流出した人頭大の礫が砂浜に転がっている。これは、意図して入れているものか、意図せず入ってしまったのか、どちらか。意図していないのであれば、本来海岸に自然にあるものではないので、撤去する必要があるのではないかな。

[事務局]

- ・人頭大の礫については意図して投入したものではなく、現時点では今後も投入することは考えていない。工事用道路から流出した人頭大の礫については今後、必要があれば撤去も考えていく。

川砂利・川砂養浜は突堤間を主体に実施してきたが、補助突堤②北にも川砂利・川砂養浜を行っている。現状では、工事用道路から流出した礫と、補助突堤②北に投入した川砂利・川砂養浜から移動した礫が動物園東に混在していると考えている。

【事業の進め方などについて】

[参加者]

- ・サンドパックの隙間に子供が落ちたりしないかが心配である。

[事務局]

- ・車両の乗り入れは禁止しているが、歩いて入る場合の利用については制限していない。利用者に危険がないように安全管理は行っているが、利用されている中で気づいた点があれば海岸出張所に連絡してほしい。

[参加者]

- ・今日の説明を聞いて「小突堤ありきではない」ということで、非常に安心した。事業期間を10年間延長したということだが、その根拠を教えてください。また、10年間延長しても目指す目標（コンクリート構造物は出来るだけ減らす、浜幅50mの確保）は変わらないということでしょうか。

[事務局]

- ・「宮崎海岸保全の基本方針」を前提にして対策の見直しを検討しており、委員会でもその方向性は了承を頂いている。構造物は出来るだけ減らす、浜幅50mの確保、環境・利活用に配慮するということは変えないということで現在検討を進めている。
事業期間を10年間延長した理由は、行政の手続き上であるが、小突堤を2年に1基ペースで想定して設定している。

[参加者]

- ・これから礫養浜の実施やサンドパックスの補修等も行っていくと思うが、これからは市民として発言できる場はあるのか。

[事務局]

- ・宮崎らしい海岸を専門家の助言も頂きながら皆さんと一緒に目指していきたいと考えている。

【コミュニケーション・その他感想など】

[参加者]

- ・漁業者も交えて談義する必要があるのではないかと。

[参加者]

- ・宮崎海岸の生態系もしっかり調査し、検討していく必要がある。

[参加者]

- ・過去にこの事業を担当していた地元の国交省の人も談義に参加してほしい。良い考えがあると思う。

[参加者]

- ・自然の砂浜は回復しないが、少なくとも海岸に砂浜が残っているので（これまで実施した対策は）効果はあると思う。市民としてできることは協力したい。

その他（工事の実施状況と予定について）

（特に意見なし）

～コーディネータのまとめ～

[コーディネータ]

- ・雨の中だが現地を見て、宮崎海岸の新しい侵食対策を考えるにあたり、皆さんが何を気にしているか、何を談義所で議論していかなければならないか、ということが見えてきたと感じている。
- ・宮崎海岸らしい砂浜、構造物の極力少ない砂浜を残していくために、どのような対策が考えられるのかを議論し、共有した。
- ・小突堤を設置して砂浜が広がればよいが、それが見えてこない・イメージできない、という意見があり、それに対して事務局からは、今後しっかり検討して提示していくという方向性が示された。
- ・養浜のあり方についても礫の効果などについて、モニタリングに基づくデータを確認しながら、行政・専門家・市民で議論していくことが重要だと現地を見て改めて共有できたと思う。

[コーディネータ]

- ・今日の意見の中で、なぜシミュレーション結果が提示されないのか、という意見があった。前々回の談義所から今回までの談義所では、しっかりとした技術的な検討結果が示されておらず、もどかしさを感じているかと思う。これは宮崎海岸の侵食対策事業の進め方のトライアングルの重要なポイントであり、委員会や分科会に諮る前に市民談義所で皆さんの意見を聞く手順を踏んでいる。決まったことを皆さんに伝えるのではなく、決定される前に皆さんの意見を聞くことで決定に反映させていくというやり方であることを改めて確認しておきたい。

■付箋紙に書かれた意見・コメント等

意見・コメント
・第 52 回と第 53 回談義所案はどちらが優先事項なのか
・資料②p15 目標浜幅 50mの確保が見込めない場所はどこか
・第 52 回談義所でこのあたり[石崎浜]に突堤追加案があったが、1 本追加で効果はないと思う（一ツ葉で 3 本入れても効果がない為）
・前は住吉エリアに突堤を作るという話でしたが、なぜ今回は動物園東エリアに突堤を作る話しに変わったのか？
・サンドバックが無駄になるのでは？
・新案で突堤間に追加突堤を入れた場合の周囲への影響のシミュレーションはされているか？
・地元の国交省 OB の方の出席をふやせないのでしょうか。良い考えがあると思います。
・なかなか、自然の砂浜は回復しませんが、少なくとも海岸に砂浜が残っていますので、効果は大きいと思います。
・ますます砂浜の保全が進むことを期待しますし、できることは頑張りたいと思います。
・これは、土用波ですか？[現地での質問]
・コンクリート護岸と自然浜のつぎ目をどうにかする方法を考えないとだめでは？
・サンドバックの隙間に子どもが落下しないか心配
・レキ養砂のレキのサイズの一定化が必要じゃないか？
・大きな石は必要なのですか？
・サンドバックの上からきれいな砂をかけ入れて欲しい
・計画→実施までどれ位の時間を想定しているのか？
・宮崎海岸沿いの生態系の調査を
・現場の養浜工事が完成した時より流出した土砂の量が多く感じました
・漁業者も交えて会話すべき（議論を！！）
・本突堤と補助突堤横の養浜の減少スピードがなぜちがうのか
・川からの砂流入をしないのであれば砂をひたすら入れなければならない
・暫定的に小突堤を自然浜エリアに設置する場合説明してほしい
・相当量の養浜砂が流失していると思う全体計画 280 万 m ³ に対しすでに養浜した量と今後の量を教えてほしい
・支障となる漁業操業の範囲何 km～何 kmを示して下さい
・漁業者との調整は国と市、関係者とどのように協議相談するかを示して下さい
・突堤を増やすくらいなら、一度手前の消波ブロックを全部撤去したほうが良いと思う
・沖合 75m以内での対策でいかに砂を止めれるかを検討すべきでは？
・護岸に直角ではなく、北に 30° 程度かたむけた突堤にしては？突堤の北側に養浜する
・なぜ[突堤]300mがつかれない？

注：一部、ひらがなを漢字に、漢字を平仮名に変換しています

固有名詞は一般名詞に置き換えています

[]事務局補足

以上